2020(R2)年4月

岩沼市地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）対象事業

＼みんなで盛り上げる／
東日本大震災の復興シンボル「千年希望の丘」プロジェクト

～市民の手により未来へつなぐ「千年希望の丘」震災伝承・防災学習事業～

宮城県岩沼市では、千年希望の丘が人々の交流や語らいの場となるよう、地方創生応援税制を活用したプロジェクトを立ち上げ、4ヵ年(2016年度～2019年度）にわたり取組を進めました。

2019年度の取組

- 昨年度に耕作した沿岸部未利用地にそばの実を作付けし、収穫しました。
- ＶＲ（仮想現実）を活用した被災前の街並み再現を公開しました。（詳細は３ページ目またはチラシ参照）
- 沿岸部未利用地を耕作地として整備し、はまなすを植えました。

千年希望の丘と植栽したはまなす

これまでの取組について

- 植樹や農作物の栽培に取り組むための耕作地を整備
- 「植樹体験プログラム」の新設
- 「育樹（いくじゅ）活動」や「震災語り部」等の既存のプログラムを組み合わせることで通年の受け入れが可能に
- 市内農家の協力を得て沿岸部に「そば」を栽培
- 収穫したそばの商品化
- 千年希望の丘交流センターからの情報発信強化(ウェブサイトの新設、展示資料の充実　等)
- 千年希望の丘エリアに点在しているスポット間（公園、交流センター、岩沼ひつじ村等）の移動が可能な手段として電動アシスト自転車を導入

上記の取組に対し、４年間で19社の企業様から合計2,270万円のご寄附をいただきました。心よりお礼申し上げます。

お知らせ

企業版ふるさと納税対象事業である、みんなで盛り上げる東日本大震災の復興シンボル「千年希望の丘」プロジェクト　は、2019年度で終了となります。

2020年度以降も、企業版ふるさと納税の対象事業に認定されることを目指し、「千年希望の丘」周辺の活性化に力を入れて参りますので、ご理解・ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

岩沼市マスコットキャラクター
岩沼係長

2019年度の取組紹介①
岩沼産そば　～今年はフレンチにもなりました～

耕作した沿岸部未利用地（千年希望の丘相野釜公園内）で、2018年度に引き続きそばの実の試験栽培を行いました。

復興のソバの花満開

岩沼市の千年希望の丘相野釜公園周辺で、ソバの花が満開となっている。秋晴れが広がった19日は、来園者がかれんな白い花を写真に収めるなどしながら、散策を楽しんでいた。

ソバ畑は千年希望の丘交流センター近くの４カ所で、計約１万800平方㍍。東日本大震災の防災集団移転跡地で復興のシンボルとなる特産物を育てようと、市が2017年度から試験栽培に取り組んでいる。

今年は８月上旬、地元農家の協力を得て、種まきをした。10月中旬ごろに収穫し、岩沼産ソバとして市内の飲食店で提供する予定。

岩沼・千年希望の丘

見頃を迎えたソバの花

令和元年9月20日　河北新報

2019年度は機械を使った受粉作業も行い、順調に生育。およそ300kgのそばが収穫できました。

令和元年10月撮影　相野釜のそば収穫

12月4日より、そばを使った商品の提供が始まりました。2019年度は「日本そば」の他に、初の試みとして、そばを使った「フランス料理」も提供しました。

↑岩沼産そばのフランス料理は、東北放送、NHK、河北新報、FMいわぬまで報道されました。

震災復興 シンボルの特産物に

岩沼産ソバ 風味良く
市内で試食会
4日から4店舗で提供

岩沼市の千年希望の丘相野釜公園近くの畑で収穫したソバを使ったフランス料理の試食会が11月29日、同市土ケ崎の飲食店「ビストロ・ル・セルクル」であった。12月4日から市内4店舗で岩沼産ソバを使った料理を提供する。

試食会のメニューはそば粉を使ったフランス・ブルターニュ地方の伝統料理「ガレット」や、ソバの実入りのクラムチャウダーなど3種類。東日本大震災の被災者ら市民5人が招待され、「ソバの香りがいい」などと料理を楽しんだ。

同店のシェフ佐々木正弘さん(55)は「岩沼産のソバは香りが若々しい。香りが引き立つよう、ソバの実をひく際に皮をたっぷり残した」と話した。

市は2017年度から、震災の防災集団移転跡地で復興のシンボルとなる特産物を育てようと、約1万800平方㍍の畑でソバの試験栽培に取り組んでいる。今年はソバの実約300㌔を収穫した。

他の提供店舗は「そば処千歳」「あべ屋食堂」「ドゥ・ラパン」の3店で、日本そばやフランス料理のメニューを用意する。

ガレットを試食する招待客ら

令和元年12月1日　河北新報

千年希望の丘
Millennium Hope Hills

2019年度の取組紹介②
岩沼集落景観VRを公開しました

岩沼集落景観VRは、東日本大震災の記憶の伝承と防災意識の啓発を図るため、ヴァーチャル・リアリティ（VR）技術を用いて再現された東日本大震災前の街並みを、スマートフォン等で体験できるシステムです。

詳細は別添のチラシ、または岩沼市のホームページをご覧下さい。

←市のホームページはこちらから

現地にある看板（写真左）のQRコードをスマートフォン等で読み取ることで、被災前の景観を再現したVR（写真右）を見ることができます。

VRを見ると、現在は壊れた石垣と赤い柵が並んでいるところに、家と稲荷神社があったことが分かります。

岩沼市一般公開

震災前の沿岸部 VRで景観再現

岩沼市は東日本大震災の津波で失われた沿岸部の景観を仮想現実（VR）の技術で再現するシステムを構築し、一般公開を始めた。スマートフォンで手軽に震災前の街並みを見ることができる。震災の記憶を伝承し、防災意識の啓発に役立てるのが狙いだ。

スマホでQRコード読み取り

6集落23ヵ所に案内板

津波被害で災害危険区域となった相野釜、藤曽根、二野倉、長谷釜、蒲崎、新浜の沿岸6集落が対象。市は慰霊公園「千年希望の丘」の交流センター近くや避難丘、いわぬまひつじ村など23カ所にVRの案内板を設置した。

案内板に掲載したQRコード（2次元バーコード）をスマホで読み取ると、震災前の現地を写した360度の画像を閲覧できる仕組み。地名の由来を伝える説明を添えるなど工夫した。

千年希望の丘交流センターでは、震災前の各集落を移動しているような仮想体験ができるビデオを上映している。被災者への聞き取りなどを通じて、震災前の景観の再現に取り組んできた筑波大の村上暁信教授の協力を得て実現した。

沿岸6集落には震災前、515世帯1784人が暮らしていたが、津波被害に伴い内陸部に集団移転した。跡地は千年希望の丘などに活用されている。

市復興創生課は「VRによって被災前と今の状況を確認できる。住民が思い出して語り合い、初めて訪れた人がかつての集落を知るきっかけにしてほしい」と利用を呼び掛けている。

津波で失われた景観を再現するVR
＝岩沼市押分のいわぬまひつじ村

2020年2月22日河北新報

被災前の街 VRで再現

岩沼市、23か所 スマホに表示

東日本大震災の記憶の伝承と防災意識の啓発を図るため、岩沼市は、仮想現実（VR）の技術を使って、CGで再現した沿岸6地区の震災前の街並みをスマートフォンの画面に表示するシステムの運用を始めた。いずれも、震災後に災害危険区域に指定され居住できなくなった地域で、市の担当者は「現地に行って、昔はどんなふうだったのかを肌で感じてほしい」と話している。

スマートフォンに表示された
被災前の街並み（岩沼市で）

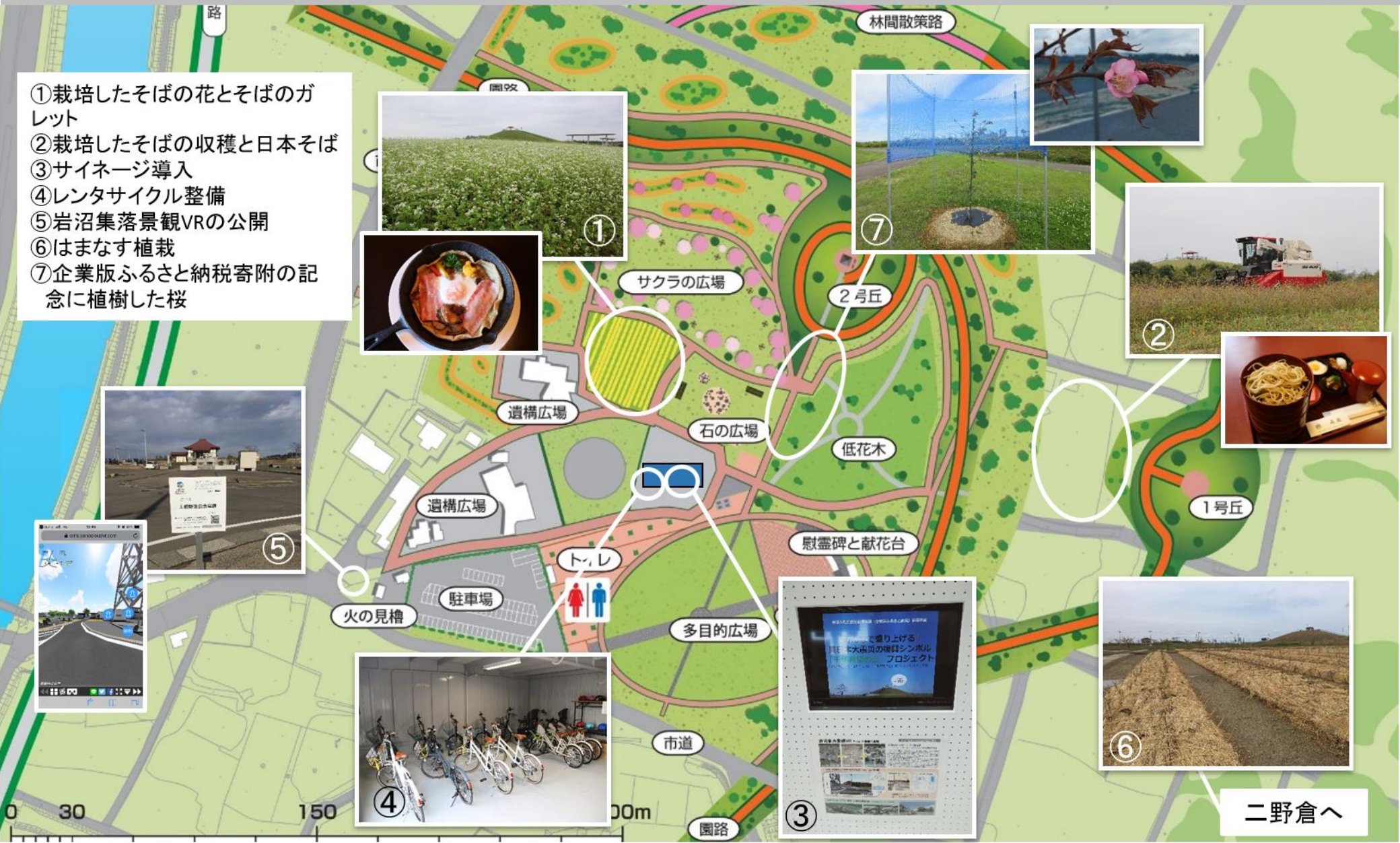
被災前の景色を再現した映像は、筑波大の村上暁信教授らが製作した。同市の相野釜や蒲崎、二野倉など6地区の23か所にQRコードが記されたが看板が設置され、スマートフォンやタブレット端末などで読み取ると、家屋やビニールハウスが立ち並ぶ被災前の景色が映し出される。端末と景色は連動し、360度見ることができる。

菊地啓夫市長は「ここに集落があったということを残すという点でも良い取り組みだ」と話し、市復興創生課は「何百年もそこに住んでいた人がいるという記録を残し、訪れる人の記憶に残したい」としている。

2020年３月５日讀賣新聞

企業版ふるさと納税

H28~R1年度の4年間で、19社の企業様から合計2,270万円のご寄附をいただき、下記のとおり整備することができました。
心より感謝申し上げます。

宮城県岩沼市

①栽培したそばの花とそばのガレット
②栽培したそばの収穫と日本そば
③サイネージ導入
④レンタサイクル整備
⑤岩沼集落景観VRの公開
⑥はまなす植栽
⑦企業版ふるさと納税寄附の記念に植樹した桜